

# 第1章 計画の策定に当たって

## 1 生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたって行うあらゆる種類の学習のことです。学校教育や家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動、企業における社員教育、職業能力の開発・向上にかかる学習、趣味などさまざまな場や機会において行う学習を意味します。

また、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の人たちが、家族との触れ合いや授業中、放課後、工作中、仕事が終わってからなどのタイミングで、幅広い分野の内容について学ぶことを意味します。

人々が生涯学習に取り組む理由には、希望する学校で学ぶため、やりたい仕事に就くため、趣味や特技を身に付けるため、子育てや介護などに役立てるため、住んでいる地域をさらに良くするため、生きがいを見つけるためなどがあります。

生涯学習に取り組むことは、自分が学習して「分かった」知識や技術を、地域社会で「活かす」ことができることであり、自ら学ぶことで人生がより豊かになり、さらには社会の豊かさにもつながります。



学ぶことで、  
自分も社会も豊かになるのか。

【うぐピー】

大野市のマスコットキャラクター

## 2 生涯学習に関する市や国、県の動向

### 市の動向

#### (1) 第六次大野市総合計画

令和3年(2021年)2月、まちづくりの目標と方向を示した大野市の最上位計画である「第六次大野市総合計画」を策定しました。この計画は、市民や各種団体などが主体的にまちづくりに取り組むうえでの指針であるとともに、国や県などとの連携を図るための指針でもあります。

この計画では「SDGsの推進(持続可能な開発目標)※1」、「ニューノーマル※2への適応とデジタル化の推進」、「分野を越えた連携」の三つの視点を重視した施策の展開を示し、地域づくり分野においては、「市民が、生涯にわたって主体的に学び地域づくりに積極的に取り組むまち」を目指す姿に掲げた生涯学習の施策を定めています。

#### (2) 教育に関する大綱

令和3年(2021年)2月、大野市の目指す基本的な教育、学術及び文化の振興に関する総合的な推進を図ることを目的に「教育に関する大綱」を策定しました。

この大綱では、大野市の人口規模や立地条件及び大野市のもつ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の深さなど、その長所を十分に生かすとともに、国際化社会や高度情報化社会の進展など、変化の大きい社会に対応することができる人材を育てる教育の推進に必要な事項を定めています。

※1 SDGsの推進(持続可能な開発目標): 6ページ(2)参照

※2 ニューノーマル: 新たな常態・常識、という意味。元々はリーマンショックの際に提唱された考え方ですが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会全体の構造に変化が起き、元の社会へは戻れないという考えから、新たな常態であるニューノーマルを構築することが求められています。

### (3) 大野市水循環基本計画

令和3年(2021年)2月、国の水循環基本法や水循環基本計画の趣旨を踏まえ、大野の恵まれた水循環を守り、未来に引き継いでいくため、大野市のさらなる水循環の健全化に向けた総合的な計画として策定しました。

この計画は「『健全な水循環による、住み続けたい結のまちの実現』-九頭竜川源流域の豊かな水環境を次世代へ-」を基本理念としています。

### (4) 第三期大野市環境基本計画

令和3年(2021年)3月、大野市の豊かな自然環境を将来の世代に引き継ぐための施策の推進を図ることを目的に、「第三期大野市環境基本計画」を策定しました。

総合的な環境対策として、自然や生き物とふれあう機会の提供、自然とのふれあい活動を行う人材育成や環境教育の推進、環境学習の機会の充実など、持続可能な社会の担い手を育む教育の推進を定めています。

また、この計画の策定と併せ、大野市は、令和32年(2050年)までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言しています。



御清水

## (5) 大野市文化財保存活用地域計画

令和4年(2022年)2月、大野市の文化財の保存・活用施策の展開に向けた基本的な考え方を示すための計画として「大野市文化財保存活用地域計画」を策定しました。

この計画では、大野市において文化財の保存・活用の取り組みが進められるよう、大野市の関連計画や関係施策との連携・整合性を図るとともに、文化財の現状と課題を踏まえた文化財の保存・活用に関する方針や措置を定めています。

大野市にはいろんな計画があって  
みんな関係しているんだね。



【うめピー】

大野市のマスコットキャラクター

## 国の動向

### (1) 第3期教育振興基本計画

平成18年(2006年)に教育基本法が改正されました。「家庭教育」「幼児期の教育」「社会教育」の振興に加え、「生涯学習」の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されました。

平成30年(2018年)には、「第3期教育振興基本計画」が策定され、以下の5項目が今後の教育政策に関する基本的な方針として示されました。

- 1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
- 2 社会の持続的な発展を<sup>けんいん</sup>牽引するための多様な力を育成する
- 3 生涯学び、活躍できる環境を整える
- 4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する
- 5 教育政策推進のための基盤を整備する

特に、生涯にわたる学びについては、次の4項目について重要性が説かれています。

- 1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
- 2 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
- 3 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に着けるための社会人の学び直しの推進
- 4 障がい者の生涯学習の推進

## (2) SDGs (持続可能な開発目標)

平成27年(2015年)9月の国連サミットで、誰一人取り残さない社会の実現を目指した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、SDGsが示されました。

令和12年(2030年)までの15年間で達成することを目指し、「質の高い教育の提供」、「ジェンダー平等」などの17の目標と169のターゲットを設定しています。

これにより、我が国においてもSDGs実施指針を策定し、全ての人への包摂的かつ公正な質の高い教育の確保や生涯学習の機会促進、子どもの貧困対策や循環型社会の構築など具体的な施策が示されました。



## (3) 第6期科学技術・イノベーション基本計画

令和3年(2021年)3月に我が国が目指すべき社会(Society5.0※)の実現のため、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せを実現できる社会を目指した「第6期科学技術・イノベーション基本計画」が策定されました。

この計画では、社会において一つの組織を離れても自らの夢を持ち続け、生きがいを持って社会に参加し続けることができるような環境が求められており、自らの能力を向上させ、活躍可能な場を切れ目なく見つけることができる社会の構築を目指すことが示されました。

---

※Society5.0: 狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指すものです。Society5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、さまざまな知識や情報が共有され、今までにない新たな価値が生み出されます。また、人工知能により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子化・高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されると言われています。

※IoT:モノのインターネット。さまざまな「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みです。



## 県の動向

### (1) 教育に関する大綱

令和元年（2019年）10月、今後5年間における福井県の基本的な教育方針となる「教育に関する大綱」が策定され、教育の目指す姿として、「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり」という基本理念が定められました。

この大綱では、目指す人間像を「自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人」、「多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人」、「ふるさとや自然を愛し、いつでもどこにいても社会や地域に貢献する人」と示し、教育、学術及び文化の振興に関する施策の基本的な方針を定めています。

### (2) 福井県教育振興基本計画（第3期）

令和2年（2020年）3月、教育に関する大綱の基本理念と目指す人間像の実現に向け、「福井県教育振興基本計画（第3期）」が策定されました。

学校教育をはじめ、家庭や地域の教育、生涯学習、文化芸術・スポーツの各分野において以下の8項目の方針を定め、具体的な施策に取り組むとしています。

- 1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成
- 2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進
- 3 豊かな心、健やかな体の育成
- 4 国際的な視野に立ち、自ら考えを発信する力の育成
- 5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備
- 6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成
- 7 生涯にわたる学びの支援
- 8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

### 3 計画の目的

---

「人生100年時代」と言われる中、全ての人に活躍の機会があり、元気に活躍し続けられる社会をつくる必要があることから、生涯にわたり必要な知識や技能、技術を学び、人生を豊かに生きることができる生涯学習社会の実現が求められています。

このような状況の中、大野市では、平成28年（2016年）に乳幼児から高校生までを対象に、家庭の教育力や地域の教育力の向上を目的とした「大野市結の故郷ふるさと教育推進計画」を策定し、家庭教育や地域教育の推進に取り組んできました。

この計画では子どもの教育に重点を置いていましたが、これからは人生100年時代に対応できる生涯学習社会の実現に向け、新たに全ての市民を対象として、生涯を通じて学び合い、協力し合い、次代の地域社会を支えるひとづくりを目指した生涯学習を推進するため、「大野市生涯学習推進計画」を策定します。

人生100年時代、  
みんなで学び合うことが大切だね。



【ゆいピー】

大野市のマスコットキャラクター  
（うぐピーとうめピーの長男）

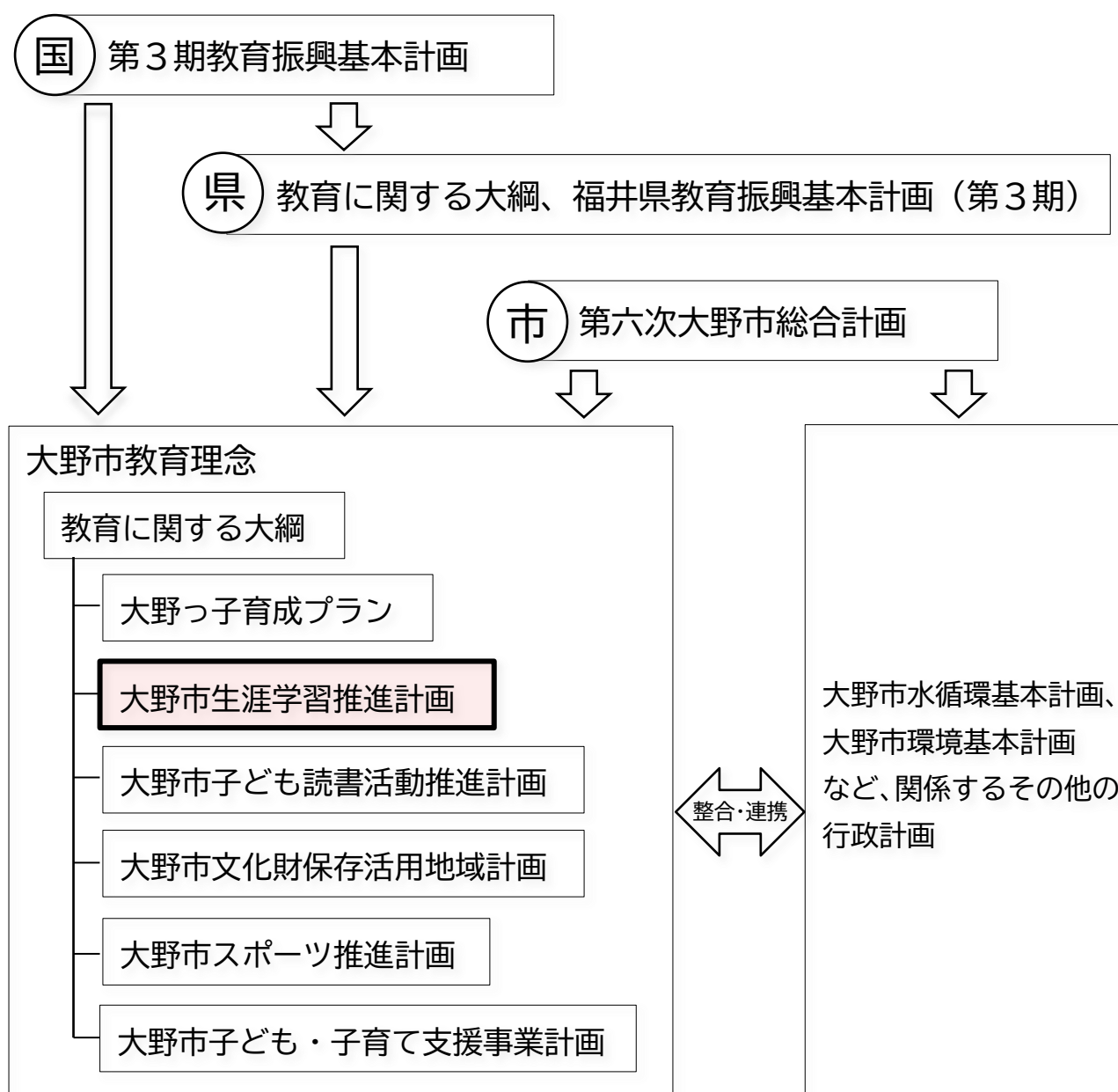


## 4 計画の位置付け

本計画は、「第六次大野市総合計画」、大野市の「教育に関する大綱」を上位計画として、大野市の生涯学習を具体的に推進するための計画です。

生涯学習は、学校教育や家庭教育、社会教育をはじめ、文化・スポーツ活動、子ども・子育てなど多岐にわたります。

そこで、分野ごとに各計画との整合を図り、関係機関と連携しつつ、生涯学習の推進を通して「第六次大野市総合計画」、「教育に関する大綱」に掲げている目標の達成に向けて取り組みます。



※スポーツの分野については、本計画の中で定めず、令和4年2月策定の大野市スポーツ推進計画において定めています。

## 5 計画の期間

本計画は、令和4年度（2022年）から令和8年度（2026年）までの5年間で計画期間とします。

5年間でどれだけ学べるかな。



【おとしちゃん】

大野市図書館のマスコットキャラクター

## 6 計画の進行管理

- (1) 社会教育委員の意見や講座、講演会参加者へのアンケートなどを踏まえ、市民の生涯学習に対する意向を把握します。
- (2) 事業実施後は、それぞれの実施状況や参加者の傾向を把握するとともに、内容の改善や新たな施策の立案を行い、施策の効率的な推進に努めます。



【かめじろう】

大野市のマスコットキャラクター（うぐピー家族のペット）

みんなの意見をききながら、改善していくんだね。

### 《参考成果指標》

第六次総合計画指標	内容	令和元年度 現状	令和7年度 目標
子どもの生涯学習事業参加回数	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数（生涯学習センター、公民館、図書館主催）	1.41回	1.45回
公民館利用回数	市民1人当たりの年間公民館利用回数（他所で行った公民館事業参加者数を含む）	3.61回	3.66回
図書館利用回数	市民1人当たりの年間図書館利用回数	2.98回	3.20回